概　要　報　告

実施期日	８月４日(金)
部　会　名	中学校　総合的な学習の時間部会

神奈川県研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

テーマ

『体験活動を重視した総合的な学習の時間の学習計画』

提案概要

○提案校では、新型コロナウィルスの影響もあり、生徒たちに「自分の考えや意見を集団の前で発表するチャンス」や「大人や地域、異年齢集団と関わる経験」が不足し、人間関係を構築するスキルが弱まっていることが自校の課題であると職員間で共通認識を持った。このことから、総合的な学習の時間の目標を「自分の生き方を考え、行動できる人になろう。そのためにたくさん体験してみよう！」とした。目標の具現化を推進するため、次の２点の必要性を全職員で確認した。

（Ⅰ）生徒の興味・関心を大切にし、体験を重視した教育活動を実践する
（Ⅱ）地域の人材や教材、学習環境を積極的に取り入れる

○総合的な学習の時間のカリキュラムについては、３年間を通して「①課題解決力の育成」「②思考力・判断力・表現力の育成」「③自己の生き方を考える力の育成」を目指して編成されており、学年ごとに、学習の段階を【１年＝『ＨＯＰ』…基礎体験】【２年＝『ＳＴＥＰ』…発展的応用】【３年＝　『ＪＵＭＰ』…個人課題解決】と位置付け、実践している。

＜１年次＞

環境・国際理解・福祉の分野を学習内容として設定し、学級や生活班を基本として、基礎的な体験学習を中心に取り組んだ。

＜２年次＞

１年生の学習内容に地域交流とキャリア教育の分野を加えて設定し、学習内容を生活班や個人で選択し、１年生で学んだ内容をさらに発展的な体験学習へとつなげられるよう取り組んだ。

＜３年次＞

年間を通して、１・２年次の体験を生かした個人課題解決学習に取り組んだ。また、年度末には、１日日程で１・２年生へ個人の研究成果を伝える、全校発表会を行った。

○まとめの方法として、１・２年生では体験学習後に振り返りや新聞作成を行い、学級にて発表を行った。最初は班単位での発表を行うが、最終的には個人単位での発表ができるよう指導した。
３年生では、２年次の後半からテーマ設定を行った上で個人課題解決学習を行い、年間を通じて研究を進め、学年内の個人発表を経て、年度末に全校発表会を行った。
３年間を通じて、学習内容やテーマに対して「事前学習→体験→まとめ→発表」や「課題設定→情報の収集→情報の整理・分析→まとめ・表現（発表）」というプロセスをスパイラル学習として進めることで、目標とする資質・能力の育成が図れると考えた。そのために、３年間の目標を見据え、全学年が年間６回（１学年は５回）、授業のまとめ取りを行う実践を行っている。このため、４月・６月・９月・１０月・１月・３月にはどの学年も１日６時間、全ての時間を総合的な学習の時間にあて、校外学習に取り組みやすい環境づくりが実現できた。

○学校として、総合的な学習の時間に対するグランドデザインを設定するとともに、カリキュラム・マネジメントの視点を持った計画を立てることで、３年次の主体的かつ効果的な課題解決学習が実現できた。また、長年培ってきた地域の方や企業、関係機関とのつながりがあることも、生徒たちに貴重な体験をさせるための大きな強みとなった。

協議の柱及び協議概要

【研究協議の柱】

「『総合的な学習の時間』をより充実した学習にするために工夫できることは…
～これからの方向性～」

・総合的な学習の時間においても、１年次から３年間の見通しを持って授業実践を行う。
・各学年の年間授業計画をしっかりと立てた上で、学習をスタートできると良い。
・学校として、学習内容を分野ごとに系統立てたものがあると良い。
・「やらされている学習」ではなく、「やってみたい」「知りたい」と児童・生徒が思うような、興味・関心の高い学習内容を設定し、学習効果を高くする。
・小中連携という視点から、小・中学校のカリキュラムを合わせ、９年間の見通しを持った学習計画が立てられるとより良い。
・学校として「総合的な学習の時間で身につけさせたい力」が何かを教員が共通認識として持ち、カリキュラム編成を行う。
・児童・生徒が、自ら「やりたいこと」「知りたいこと」「学びたいこと」を見つけられるような場面設定をし、決めたことに対し主体的に探究を進め、やりきる力を身につけさせる。

まとめ概要

○「総合的な学習の時間」において、３年間のゴールを見通した指導と評価を行うことが非常に重要であると考える。本研究においては、３年間の学習計画が立てられ、授業が進めやすい体制が整っている一方、計画された内容を「こなしていくだけ」の学習になってはいけない。教員が、生徒たちの「３年後になっていて欲しい姿」を見据え、生徒自身が「なぜだろう」「どうしたらいいだろう」という疑問や課題意識を持てる工夫や、「やってみたい」「調べてみたい」という「学びの必然性」を生む問いかけがあってこそ、深い学びに繋がっていくものだと考える。

○提案校の取組においては、自ら個人探究課題を設定し、探究を進める中で「自ら課題を見つける力」「それを解決する力」「情報活用能力」「コミュニケーション能力」など、様々な力の育成を図っている。３年間の集大成の場として全体発表会が設定されているが、発表の内容がどれだけ素晴らしいかではなく、一人一人が、その探究を進める過程の中で、どのように努力し、力を身につけ、新たな価値観を知り、それぞれの生き方について考えらえたのかについて、教員がその都度価値付け、実態に合わせて支援していくことが大切である。

○カリキュラム・マネジメントの視点から、横断的・総合的な学習を実現することが必要である。学習指導要領の目標に示されているとおり、総合的な学習の時間に行われる学習については、教科等の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくものである。本提案にあったように、１・２年次の様々な体験学習や、３年生での課題解決学習において、生徒が自ら学びを深めるためには、各教科で培った専門的知識が不可欠である。また、生徒たちの実生活に結び付けた課題を設定することで、教科等で身に付けた知識の必要性や有用性を実感させる、非常に価値のある学習となる。教員がこのような「横断的・総合的な視点」を持って指導できていることが、とても大切であると考える。

○本提案については、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、総合的な学習の時間の目標を設定した１つのモデルとして、非常に参考になる取組であった。